

# Vascular Street Journal

 新  
春  
特  
集

## 朔 啓二郎 教授 福岡大学学長就任

令和元年12月1日より、福岡大学学長に就任しました。福岡大学医学部心臓・血管内科学講座および第二内科同門会の皆さんには大変なご心配をおかけしましたが、どうか無事に、予備選挙及び学長最終候補者選挙を1位でクリアし、信任投票の後に決定しました。身が引き締まる思いです。ご存知とは思いますが、4年前にも学長選挙に出馬しておりました。その時は、医学部長職もまだ1期でしたし、医学部改革に乗り出していた時ですので、そこまでの希望はなかったのですが、福岡大学をもっと明るく活気ある大学にしたいと、今回は本気でしました。様々な問題が山積した福岡大学ですが、透明性のある大学運営を目指そうと、設立85年を区切りに、教職員の皆さんが卒業生である私に舵取りを託された結果と受け止めています。大学の使命は教学・教育ですが、「共学・共育」、つまり、ともに学び・育つ環境を目指したいのです。英語では、「Rise With Us」ですね。現代を駆け抜ける、様々なテクノロジーやAIを活用し、学生とのコミュニケーションを強化し、共学・共育の効率化を図ります。私の学長選挙立候補時のマニフェストを下記に示しますが、4つの改革を4年で実現するように大学の執行体制を組織していきます。母校のために全力で取り組み、率先して福岡大学の未来を切り開くことをお約束いたします。

福岡大学 学長 朔 啓二郎

令和元年（2019年）10月1日

第510号（7534）

### 福岡大学学報

 第510号  
10月号  
発行 企画部広報課

#### 次期学長に 朔 啓二郎 教授 を選出



学長選任規程に基づき、任期満了に伴う学長最終候補者選挙を9月15日（日）に行い、朔啓二郎教授を選出し、続いて9月25日（水）の信任投票において、その信任が得られましたので報告します。

なお、就任については、理事会の承認を得て12月1日付けで発令され、任期は4年となっています。

#### 朔 啓二郎

昭和53年福岡大学医学部医学科卒業、昭和56年から昭和60年（4年間）米国オハイオ州シンシナティ大学内科フェロー。昭和63年4月福岡大学病院内科第二講師となり、平成12年4月に医学部内科学第二（平成19年4月講座名変更により心臓・血管内科学）主任教授（福岡大学病院循環器内科部長兼務）。平成26年より、基礎研究機関研究所「心臓・血管研究所」所長。

平成17年12月から平成19年11月まで福岡大学病院副院長（1期）、平成25年12月から現在に至るまで学部長（3期）、学校法人福岡大学理事、同評議員を歴任。

日本内科学会功労会員（総合内科専門医）、日本動脈硬化学会功労会員（専門医）、日本循環器学会特別会員（専門医・FJCS）、日本心臓病学会特別正会員（FJCC）、日本心血管インターベンション治療学会会員（名誉専門医）、一般社団法人九州臨床研究支援センター理事、日本機能性食品医学学会理事、公益財団法人臨床研究奨励基金専務理事、『Vascular Street Journal』編集長（以上、現在に至る）、日本循環器学会理事および日本心臓病学会理事は平成28年まで歴任した。Fellow of American College of Physicians (FACP)、Fellow of American College of Cardiology (FACC)。専門は心臓・血管内科学（JCI Circulation, JACC等多数、荒川賞、日本内科学専門医会研究奨励賞、日本医師会医学研究助成、上原記念生命科学財団研究助成等多数）。医学博士。67歳。

令和元年（2019年）9月2日

第509号（7529）

(所信等)

#### 福岡大学が生まれ変わる4つの改革を4年で実現

朔 啓二郎

現在の福岡大学には、学内手続に起因する様々な問題が生じています。このような事象が起こった原因は、福岡大学の会議体本来のチェック機能が十分でなかったことにあったと考えます。従って、福岡大学の改革は喫緊の課題と言えます。私は以下の4つの改革に直ちに取り組み、4年間で開かれた自由闊達な議論で学内会議体を活性化するとともに、多様な分野で活躍している卒業生などの英知を力強い総合力として東海、西日本随一の総合教育、研究、医療の提供を通して時代に即応し持続して発展する福岡大学に生まれ変わらせます。

#### 1 執行体制の改革

- ・正義の実現のために、学内会議体の活性化に資する執行部を組織し、公平公正な運営に努めます。
- ・運営組織等の位置づけを明確にし、情報を公開して、「いつ」「何が」「どのように」協議検討されているかを学内で共有し、すべての決定プロセスが皆さんにとって納得いくものにします。
- ・意思決定手続とコンプライアンスを順守し、リスク管理の徹底と責任の明確化を図ります。

#### 2 財政基盤の改革

- ・持続ある福岡大学の発展のために大学経営を見える化し、財政基盤の強化を図ります。
- ・無駄を省き、予算の選択と集中を徹底します。
- ・西日本一の総合大学としてあり続けるため、全ての学部が発展するバランスの取れた予算配分を実施します。
- ・監事監査結果報告書の意見に鑑み、多額の赤字を抱える博多駅クリニックは、早期閉院に努めます。
- ・西新病院は当初の収支シミュレーションから、黒字枠で移転・建替等考慮することとした。医療の現実には厳しいものがあります。病診連携・地域ニーズに合わせ、診療特化する方向性、発展的改革を実行します。
- ・加えて、福岡大学病院と筑紫病院の病院経営のあり方も、財政規律を保ちながら発展的・継続的に見直します。

#### 3 教育・研究の改革

- ・メールやSNS、AIを活用して学生とのコミュニケーションを強化し、教育の効率化を図ります。
- ・国際交流都市福岡にふさわしいグローバル人材の育成を行うとともに、留学生環境を整えます。
- ・併せて文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成を実行します。
- ・アントレプレナーシップ教育を導入し、Society5.0で新たな価値を生み出します。
- ・時代に即応した教育内容とするため、定期的に学内研修の点検、見直しを行う制度を設けます。
- ・社会人、主婦、高齢者を対象としたリカレント教育に取り組みます。
- ・利益相反(COI)マネジメントを実質化し、研究者を守り研究を支援するためのAcademic Research Organization等の部門を設置し、最先端研究を支援していきます。優秀な福岡OBとのコラボレーション・ネットワーク構築に努めます。

#### 4 働き方とキャンパスの改革

- ・女性研究者、若手研究者等の多様な人材を登用し、活躍を促進します。
- ・ワークライフバランスを徹底し、有給休暇、育児休暇、介護休暇等の積極取得を推進します。
- ・キャンパス内の施設配置の基本計画を策定・公開し、わかりやすく合理的な勉強環境を年次的に整えます。また、住民参加型社会と大学が一体化できるよう、大学をデザイン・配慮します。
- ・障がい者、外国人等にも優しいユニバーサルデザインを取り入れます。
- ・キャンパス内にモニタカメラを増設し、安全安心のキャンパス作りを実施します。

私は本学医学部昭和53年卒業です。母校のために以上のことに全力で取り組み、率先して福岡大学の未来を切り開くことをお約束いたします。

## 万歳！ 万歳！ 万歳！

朔君：学長就任 おめでとう！

医学部関係者一同が待望していた初の医学部からの学長が、医学部開設以来48年目にして漸く誕生！それも我々の教室から！第1期生の入局当時には予想もしていなかった私個人・同門一同・医学部全員、三重の喜びです！

教室を創始した者の退任後の最大の関心事は、残した教え子たちのその後の活躍ぶりにあることは勿論ですが、教室が朔教授・更には三浦教授へと継承されてきたことは、私の最も誇りにするところです。その上に、医学部長から更には学長まで上り詰める事など、まさに望外の欣快事、よく頑張ってくれました。重ねておめでとう！

一方では医学部としての国内での成績が半世紀近くを経ても、未だに必ずしも期待ほどには発展して来なかった現実が、福岡大学全体の問題でもあることを憂えている者の一人として、新学長に期待する所、如何に大なる事か、言わずもがなです。その重責を、可能な方法を大上段から駆使して、医学部の長年の夢を叶えさせて貰う事が、福岡大学人一同の最大の期待でしょう。今日まで幾多の難関を乗り越えてきた貴君の実力を、今こそ全身全霊でフルに活用して、必ずや福岡大学の画期的な発展をもたらしてくれる日の到来を夢見しています。

荒川 規矩男



第1期生の新入局（最前列）記念写真（左端：Dr. 宇都宮〈現 Mrs. 朔〉 ←→ 右端：Dr. 朔） 1978年春



各科対抗野球 第2内科 優勝（右上端：朔君）1978年



バトンタッチ 2000年3月末

## 祝 朔医学部長が福岡大学学長ご就任

2019年12月1日より朔医学部長が福岡大学学長に就任されました。この度のご就任、誠に喜ばしいことと、謹んでお祝い申し上げます。これも他でもない、先生の日頃のご努力と卓越した実績の賜物と拝察しております。

2001年、私がアメリカ留学より帰国してから、あっという間に18年が経過いたしました。当時、朔学長は、福岡大学医学部卒業生として初の主任教授としてご活躍中であり、その後、卒業生として初の医学部長に就任されました。そして、今回は、福岡大学全卒業生として初の学長に就任されました。医学部から学長は輩出できないという定説を打ち破ったこの偉業には、皆様とともに敬意を持って接すべきであると考えております。今回の偉業達成は、次の偉業達成への出発点でもあり、これからは、医学部のみでなく、福岡大学全学部が進化していくように先導していただきたく存じます。

福岡大学の学長を輩出した心臓・血管内科学講座として、今後も医局員一同、診療・研究・教育に力を合わせて精進して参りたいと思っております。このうえは、ご自愛いただき、更なるご活躍と福岡大学の発展にご尽力されますことを心よりお祈りいたします。

福岡大学医学部心臓・血管内科学講座  
主任教授 三浦 伸一郎



(7528) 第 509 号

令和元年 (2019年) 9月2日

令和元年 8月10日

履 歴 書				
ふりがな	さく	けいじろう	性 別	生年月日
氏 名	朔	啓二郎	男	昭和 27 年 3 月 6 日生 (満 67 歳)
学 歴				
年 月	事 項			
昭和53年 3月	福岡大学医学部医学科卒業			
昭和55年 4月	福岡大学大学院医学研究科(病態生化学系専攻博士課程)(昭和58年3月・留学中に中退)			
昭和60年11月	医学博士の学位授与(福岡大学乙第56号)			
職 歴				
年 月	事 項			
昭和53年 6月	福岡大学病院内科第二 研修医(昭和54年3月まで)			
昭和54年 4月	福岡大学病院内科第一 研修医(昭和55年3月まで)			
昭和56年 6月	米国シンシナティ大学内科フェロー(Lipid Research Clinic)(昭和60年3月まで)			
昭和60年 4月	福岡大学病院内科第二 医員(昭和60年10月まで)			
昭和60年11月	福岡大学医学部内科第二 助手(昭和63年3月まで)			
昭和63年 4月	福岡大学病院内科第二 講師(平成12年3月まで)			
平成12年 4月	福岡大学医学部内科第二 主任教授(福岡大学病院循環器科部長兼務)			
平成17年12月	福岡大学病院副院長(平成19年11月まで)			
平成19年 4月	福岡大学医学部心臓・血管内科学(講座名変更) 主任教授(平成29年3月まで)			
平成25年12月	福岡大学医学部長(現在に至る)			
平成25年12月	学校法人福岡大学理事・評議員(現在に至る)			
平成29年 4月	福岡大学医学部総合医学研究センター 教授(現在に至る)			
学会及び社会における活動等				
年 月	事 項			
昭和53年 4月	日本内科学会会員(功労会員)、同認定内科医・認定総合内科専門医(現在に至る)			
昭和55年 4月	日本動脈硬化学会会員(功労会員)、同専門医(現在に至る)			
平成元年 4月	日本循環器学会会員(特別会員、FJCS)、同専門医(現在に至る)			
平成11年 4月	日本心臓病学会会員(特別正会員、FJCC)(現在に至る)			
平成18年 4月	月刊誌 Vascular Street Journal 編集長(現在に至る)			
平成18年 4月	日本内分泌学会会員、専門医・指導医(現在に至る)			
平成21年 4月	日本心血管インターベンション治療学会会員、認定医、名誉専門医、福岡大学施設代表医(現在に至る)			
平成24年 4月	一般社団法人 九州臨床研究支援センター 理事(現在に至る)			
平成24年 4月	日本機能性食品医学会 理事(現在に至る)			
平成24年 4月	日本循環器学会 理事(平成28年6月まで)			
平成25年 9月	日本心臓病学会 理事(平成28年10月まで)			
平成25年12月	<海外> 公益財団法人 臨床研究奨励基金 理事、専務理事(現在に至る)			
平成 9年 7月	Fellow of American College of Physicians (FACP)(現在)			
平成11年 8月	Fellow of American College of Cardiology (FACC)(現在)			
平成15年 6月	Fellow of American Heart Association (FAHA)(現在)			
平成26年 8月	Fellow of European Society of Cardiology (FESC)(現在)			



昭和53年 4月 6日



52年度卒業式はなやかに

四、二〇八人が晴れの卒業



各学部の総代に卒業証書授与する副学長

▽医学部 六二人  
(総代：明啓 郎) ▽薬学部  
八六八人(総代：松井直幸) ▽体育  
学部 二二八人(総代：吉川泰志)



Prof. K. Saku's Commentary

医学部から学長はでない、卒業した頃から言われてました。私はそう思っていないどころか、卒業式の総代になった時、その壇上で学長になろうと思ってました。思わないと実現しないのです。これは案外重要なことで、志を高く持つようと、医学部の学生に言い続けてます。